



神奈川大学デジタルアーカイブ

「神奈川大学デジタルアーカイブ」の成果と課題

津田 良樹



写真1 「神奈川大学デジタルアーカイブ」TOP ページ
<http://kdarchive.kanagawa-u.ac.jp/archive/>



写真2 「古志郡竹沢村角突」映像資料（常民研所蔵）。Web サイト上で動画で閲覧可能

2012年度から始まった「デジタルアーカイブの構築」事業（日本常民文化研究所特別予算）は2016年度末で、5年間の区切りを迎えた。「デジタルアーカイブの構築」事業は日本常民文化研究所（以降、常民研と略記する）の特別予算で進めてきたが、当初より常民研・非文字資料研究センター・大学資料編纂室・図書館の4機関に情報システム推進部の担当者が加わり、4機関が所蔵する資料（知的財産）をWeb上に公開することを目的とし、さらに順次学内の各機関を巻き込んで公開の幅を広げて行くことが狙いであった。しかし、図書館は独自のOPACおよび学術機関リポジトリを持っており、それを継続しつつ、後に横断して検索できるようにすることとなった。結果的に図書館を除く3機関の資料公開に止まり、その他の機関にまで公開の幅を広げるまでには至らなかった。5年計画のうち2012-13年度の2か年は発注先およびシステム選定を経て、神奈川大学デジタルアーカイブを構築し、公開を開始した。残る3か年で公開する資料の充実を図るべく、資料目録の作成、資料のデジタル化、登録作業を進めた。しかし、文献資料・動画・写真・民具など雑多な資料群を公開するには資料を整理する能

力だけでは対処することが難しく、情報技術にもたけた人材が不可欠であった。幸い最終年度にはその人材が加わり、大きく公開が進展し、5年計画の初期の目的をほぼ達成できた。その結果、戦前期常民研刊行物・古文書・動画・写真・戦意高揚紙芝居（音声を含む）・大学史資料など多彩な内容の資料公開が実現した。とはいえ、構築の過程では様々な課題に直面し、未解決のまま残されている問題も多々残されている。以下に成果と課題を示し、今後の発展の指標にしたい。

〈成果〉大学の研究情報、資料情報、特に大学所蔵の原資料を広く世の中に公開・公表する大学唯一の場を構築することができた。すなわち、大学の所蔵する貴重な「学術情報資料」を広く公開するとともに、情報を永続的に保存することが可能になった。これは大学に求められている社会的使命のひとつであり、この事業は将来的には大学の教育・研究機能、ひいては国際的競争力の強化にもつながるものになった。

また、具体的には資料公開の手法として、Webサイト上において以下の効果的な資料閲覧機能を搭載した。常民研の映像資料の動画再生、非文字資料研究センターの戦意高揚紙芝居コレクションの音声収録データとともにスライド方式での再生など、視聴覚的に訴える表現とした。

〈課題〉取りあえず、公開可能でありそうな資料を有する常民研、非文字資料研究センター、大学資料編纂室の資料公開から始めたが、当然ながら図書館も大きな資料群をかかえており、学術機関リポジトリのシステムとの調整を図り、公開の場を整理・統合した方がよいと思われる。さらには懸案である全学的に対象の場を広げるべきであろう。そのためには全学的な総合学術研究推進委員会のもとに「神奈川大学デジタルアーカイブ」を位置づけ、真に全学的な知的財産を公開する場にしなければならないであろう。

5年計画の初期の目的をほぼ達成できたとは言うものの、「神奈川大学デジタルアーカイブ」としては最初の一步を踏み出したばかりであり、これから、さらなる内容の充実を図らねばならない段階である。また、対象となる資料の拡大も急務である。にもかかわらず、時節柄とはいえ、5年計画の一区切りが終わった2017年度はシステムを維持する予算しか与えられていないようだ。大学の知的財産を積極的に社会に公開・還元するのが「神奈川大学デジタルアーカイブ」の主目的であることを考えれば、この時点で停滞させるわけにはいかない。今後、全学的な取り組みへの進展を期したい。

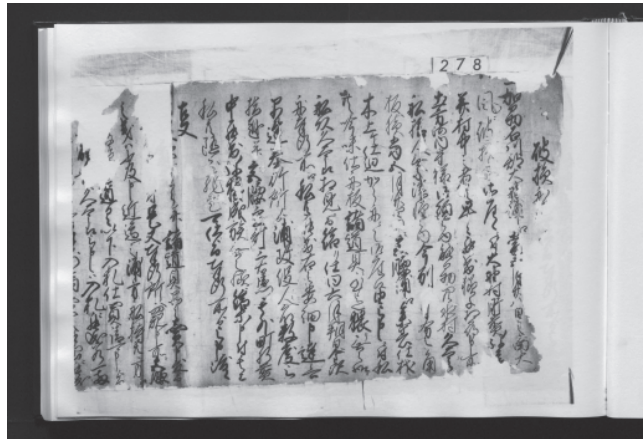


写真3 「時国健太郎家文書」収集歴史資料（常民研所蔵）。Webサイト上にて画像閲覧可能



写真4 「減私奉公」戦意高揚紙芝居コレクション（非文字資料研究センター所蔵）。Webサイト上にて神奈川大学放送研究会KBASによる音声とともに閲覧可能